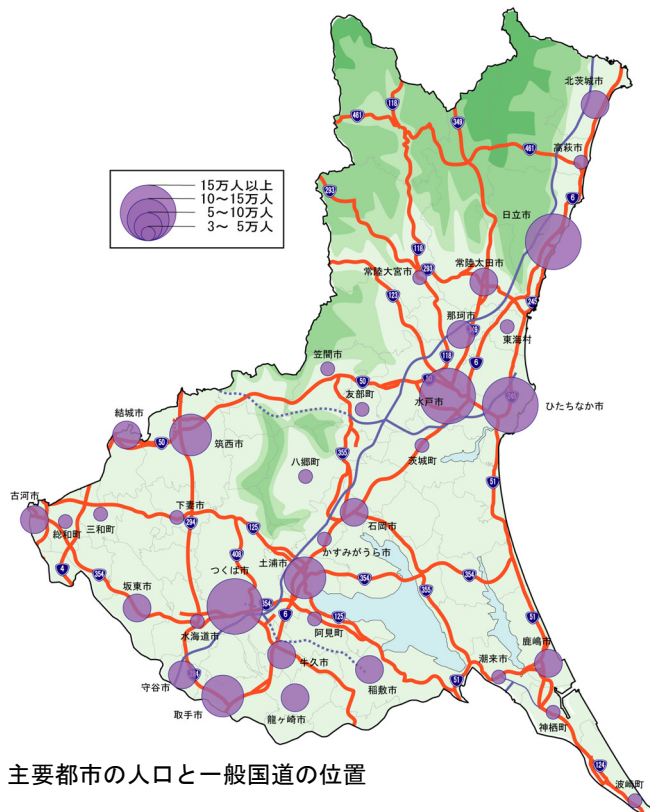


茨城県の概況と課題

① 広い可住地に点在する都市

- 茨城県の人口は約300万人で全国11位です(H15)。
- 総面積は約6千km²で全国24位ながら、平坦部が多く可住地面積では約4千km²で、北海道、新潟県、福島県に次ぐ4位を誇ります。
- このような広い県土に主要都市が点在し、これらを最短経路で接続する一般国道などの幹線道路に交通が集中しやすくなっています。



図：主要都市の人口と一般国道の位置

出典：総務省統計局「H15.10.1現在推計人口」、国勢調査

② 都市を結ぶ幹線道に交通が集中

- 県土に点在する都市を結ぶ幹線道路(県道以上)に交通が集中しやすくなっていることから、延長24%に過ぎない一般国道が、自動車交通全体の42%を受け持っています。
- このように自動車交通が集中している一般国道などの幹線道路における円滑な交通を実現することが急務です。

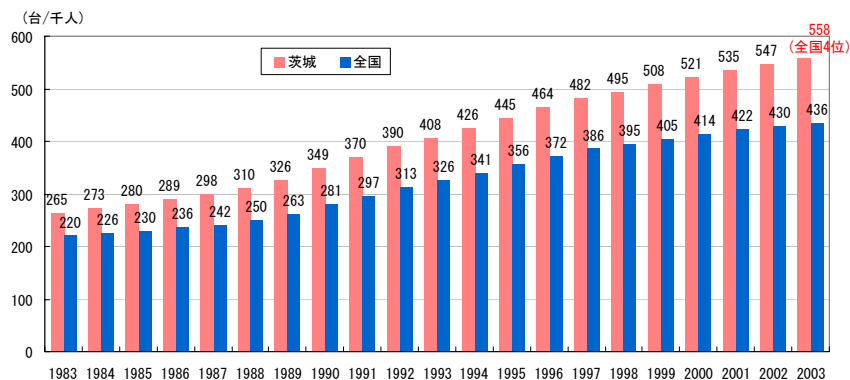


図：1日あたりの交通量

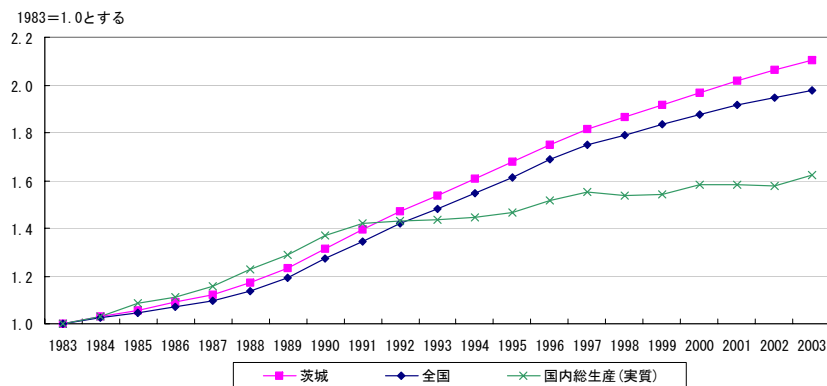
出典：H11道路交通情勢調査

③ 依然として増加傾向の自動車台数

- 茨城県の人口あたり乗用車保有台数は全国第4位で、自動車は生活に欠かせない移動手段となっています。
- 1990年以降経済成長が鈍化する中、茨城県の自動車保有台数は増加傾向が維持されており、全国との差も次第に大きくなっていることから、依然として自動車交通の需要は高いと考えられ、これに対応した道路整備が課題となります。



図：千人あたり自動車保有台数の推移

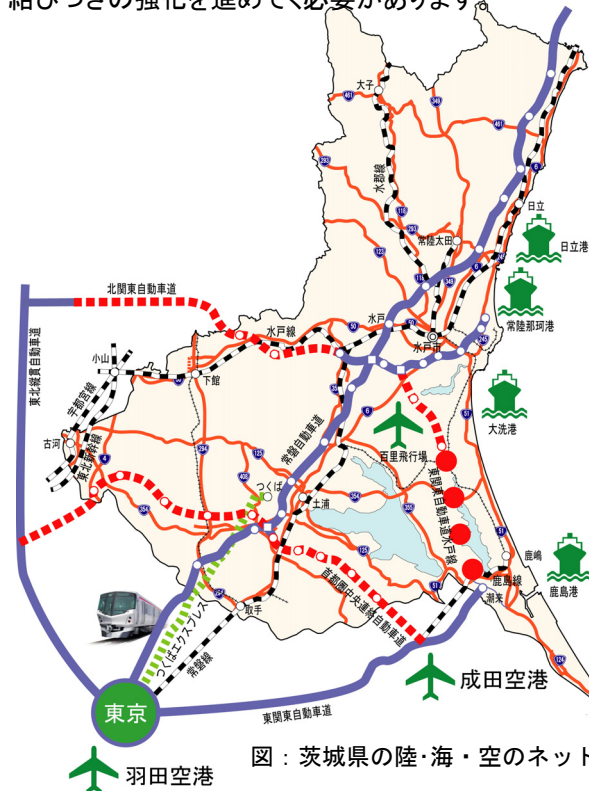


図：国内総生産と人口千人あたり自動車保有台数の伸び率

出典：自動車検査登録協会「自動車保有車両数月報」、
総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」、内閣府経済社会総合研究所HP

④ 陸・海・空のネットワークづくり

- 茨城県は幹線道路に交通が集中する県土構造と高い自動車交通需要に対応しつつ、重要港湾や空港、鉄道との円滑な連携も考慮した「陸・海・空のネットワークづくり」を進めています。
- 重要港湾は4港あり、中でも常陸那珂港(H11供用開始)は、首都圏の物流の合理的再編と発展に大きく寄与するものと期待されています。
- 空港は、北関東の空の玄関として百里飛行場の民間共用化を控えています。
- これらを、北関東自動車道や圏央道などの規格の高い道路や幹線道路の整備により連携し、結びつきの強化を進めていく必要があります。



図：茨城県の陸・海・空のネットワークづくり